

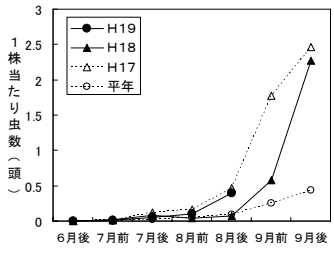
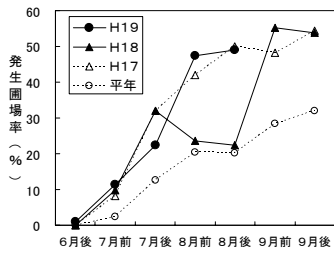
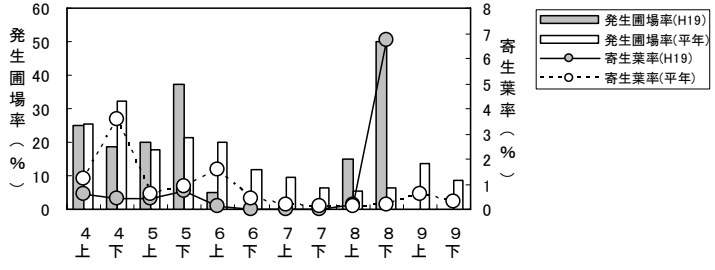
#### 4. 発生予察情報の発表

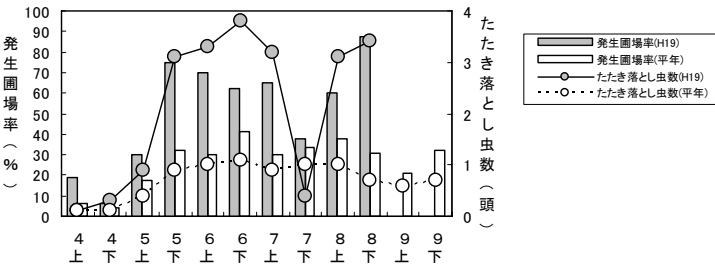
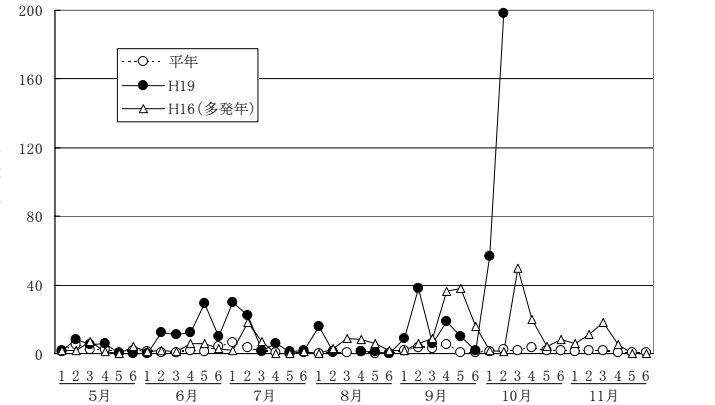
##### (1) 情報(警報、注意報、特殊報)の内容

情報の種類	発表月日	対象作物	対象病害虫	情報内容
警報				
注意報 第1号	平成19年 5月25日	茶	チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメコバイ	<p>1. 発生地域(対象地域) 県下全域</p> <p>2. 発生程度 多</p> <p>3. 注意報発令の根拠</p> <p>(1)チャノキイロアザミウマ ア 5月下旬の巡回調査(16筆)の結果、チャノキイロアザミウマのたたき落とし(A4板トレイに5回×4カ所)虫数は82.0頭(平年17.5頭)、発生圃場率は87.5%(平年81.3%)で平年より発生が多い。 イ 7月5日に注意報を発表した平成17年よりも発生が多い。</p> <p>(2)チャノミドリヒメコバイ 5月下旬の巡回調査(16筆)の結果、チャノミドリヒメコバイのたたき落とし(A4板トレイに5回×4カ所)虫数は3.1頭(平年0.9頭)、発生圃場率は75.0%(平年32.2%)だった。</p> <p>4. 防除法等</p> <p>(1)二番茶を摘採する園では、新芽生育初期に加害されると減収程度が大きいため、萌芽期に防除を行う。</p> <p>(2)チャノミドリヒメコバイの幼虫は葉裏に生息するので、薬液が葉裏までかかるよう十分量を散布する。</p> <p>(3)幼木園や中切り更新を行った園では、長期にわたり被害を受けやすいので、残効の長い薬剤で防除する。</p>
				<p>図1 たたき落としによるチャノキイロアザミウマ虫数(巡回調査)</p>
				<p>図2 たたき落としによるチャノミドリヒメコバイ虫数の推移(巡回調査)</p>

情報の種類	発表月日	対象作物	対象病害虫	情報内容																																																																																																																																																																																	
注意報 第2号	平成19年 7月6日	水稻	コブノメイガ	<p>1. 発生地域(対象地域) 県下全域</p> <p>2. 発生程度 多</p> <p>3. 注意報発令の根拠</p> <p>(1)6月24、26日にやや少ない飛来、6月30日にやや多い飛来、7月4～5日に多飛来を認めた。</p> <p>(2)県予察圃場(早期、無防除、諫早市)における10㎡当たりの成虫数は7月5日以降増加している(表)。</p> <p>(3)蛍光灯採集箱(諫早市)では7月3日に誘殺を認め、7月5日は多い誘殺が認められた。フェロモントラップ(諫早市小船越)では6月24日以降断続的に誘殺が認められ、7月5日に急増した。その他の地域のフェロモントラップにおいても7月1日以降誘殺数が増加傾向にある(表)。</p> <p>4. 防除法等</p> <p>(1)早期水稻で出穂が7月3～4半月以降となる見込みの圃場では、止葉への食害防止のため7月3半月に防除を行う。</p> <p>(2)5月中・下旬移植の早植え水稻では7月3半月に防除を行う。また、6月以降に移植した圃場でコブノメイガに効果のある箱施薬剤(フィプロニルまたはスピノサドを含む箱施薬剤)を用いていない場合も7月3半月に防除を行う。</p> <p>(3)6月以降に移植した圃場でコブノメイガに効果のある箱施薬剤を用いた圃場では基本的に防除の必要はない。ただし、6月上旬に移植した圃場では箱施薬剤の残効が少なくなっていると考えられるので発生状況に十分注意する。</p> <p>(4)地域や圃場によって飛来・発生状況が異なることがあるのでそれぞれの圃場における発生状況に注意して防除を行う。</p> <p>(5)さらに飛来が続くと考えられるので今後の飛来及び圃場での発生状況に注意する。</p> <p>表 コブノメイガの飛来状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">月日</th> <th rowspan="2">蛍光灯採集箱(頭)</th> <th rowspan="2">追い出し成虫数(頭/10㎡)</th> <th colspan="6">フェロモントラップ(頭)</th> </tr> <tr> <th>諫早市小船越</th> <th>諫早市小野</th> <th>長崎市琴海戸根</th> <th>佐世保市八の久保</th> <th>五島市籠淵</th> <th>対馬市上県</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>6.21</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>0</td></tr> <tr><td>22</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td><td>0</td><td>0</td><td></td></tr> <tr><td>23</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td><td></td><td>0</td><td></td></tr> <tr><td>24</td><td>0</td><td>0</td><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>0</td><td></td></tr> <tr><td>25</td><td>0</td><td>0.1</td><td>0</td><td></td><td></td><td></td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>26</td><td>0</td><td>0.6</td><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td>0</td><td></td></tr> <tr><td>27</td><td>0</td><td>0.4</td><td>0</td><td></td><td></td><td></td><td>0</td><td></td></tr> <tr><td>28</td><td>0</td><td>0.1</td><td>0</td><td></td><td>1</td><td></td><td>0</td><td></td></tr> <tr><td>29</td><td>0</td><td>0.1</td><td>0</td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>30</td><td>0</td><td>0.1</td><td>10</td><td>0</td><td></td><td></td><td>5</td><td></td></tr> <tr><td>7.1</td><td>0</td><td>1.1</td><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td>5</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>0</td><td>1.4</td><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td>7</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>1</td><td>1.2</td><td>4</td><td></td><td></td><td>6</td><td>6</td><td>8</td></tr> <tr><td>4</td><td>3</td><td>1.2</td><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>19</td><td>11.3</td><td>31</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td>18.2</td><td></td><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td>4</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>23</td><td></td></tr> <tr> <td>合計(平年値)</td> <td>23(4.4)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 蛍光灯採集箱は諫早市小船越に設置</p> <p>注2) 追い出し成虫数は県予察圃場(早期、無防除、諫早市小船越)の100㎡調査における成虫数を10㎡当たりに換算</p> <p>注3) フェロモントラップの諫早市小野、長崎市琴海戸根、佐世保市八の久保、対馬市上県は数日間まとめて調査した数値を示す</p>	月日	蛍光灯採集箱(頭)	追い出し成虫数(頭/10㎡)	フェロモントラップ(頭)						諫早市小船越	諫早市小野	長崎市琴海戸根	佐世保市八の久保	五島市籠淵	対馬市上県	6.21	0	0	0				1	0	22	0	0	0			0	0		23	0	0	0				0		24	0	0	3				0		25	0	0.1	0				0	0	26	0	0.6	5				0		27	0	0.4	0				0		28	0	0.1	0		1		0		29	0	0.1	0				1		30	0	0.1	10	0			5		7.1	0	1.1	4				5		2	0	1.4	1				7		3	1	1.2	4			6	6	8	4	3	1.2	5				2		5	19	11.3	31						6		18.2		1				4								23		合計(平年値)	23(4.4)							
月日	蛍光灯採集箱(頭)	追い出し成虫数(頭/10㎡)	フェロモントラップ(頭)																																																																																																																																																																																		
			諫早市小船越	諫早市小野	長崎市琴海戸根	佐世保市八の久保	五島市籠淵	対馬市上県																																																																																																																																																																													
6.21	0	0	0				1	0																																																																																																																																																																													
22	0	0	0			0	0																																																																																																																																																																														
23	0	0	0				0																																																																																																																																																																														
24	0	0	3				0																																																																																																																																																																														
25	0	0.1	0				0	0																																																																																																																																																																													
26	0	0.6	5				0																																																																																																																																																																														
27	0	0.4	0				0																																																																																																																																																																														
28	0	0.1	0		1		0																																																																																																																																																																														
29	0	0.1	0				1																																																																																																																																																																														
30	0	0.1	10	0			5																																																																																																																																																																														
7.1	0	1.1	4				5																																																																																																																																																																														
2	0	1.4	1				7																																																																																																																																																																														
3	1	1.2	4			6	6	8																																																																																																																																																																													
4	3	1.2	5				2																																																																																																																																																																														
5	19	11.3	31																																																																																																																																																																																		
6		18.2		1				4																																																																																																																																																																													
							23																																																																																																																																																																														
合計(平年値)	23(4.4)																																																																																																																																																																																				

情報の種類	発表月日	対象作物	対象病害虫	情報内容
				<p>注 4) 合計は6月～7月1半旬の総数、平年値はH9～18年の最大・小値を除いた平均値</p> <p>注 5) フェロモントラップはH18以降の調査開始なので平年値無し</p> <p>注 6) 7月5日以降の空欄日は今後集計予定</p>
注意報第3号	平成19年8月16日	普通期水稻	トビイロウンカ	<p>1. 発生地域(対象地域) 県下全域</p> <p>2. 発生程度 多</p> <p>3. 注意報発令の根拠</p> <p>(1) 8月上旬の巡回調査(114筆)の結果、株当たり虫数は0.11頭(平年 0.05頭)と平年よりやや多かった(図1)。発生圃場率は47.4%(平年 20.3%)と坪枯れ被害が多発した平成17年よりやや高く(図2)、過去10か年で最も高かった。また、8月上旬の要防除水準(株当たり虫数0.2頭)を超える圃場も散見された。</p> <p>(2) 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。</p> <p>4. 防除対策</p> <p>(1) 本虫の発生は圃場間や同一圃場内でも偏りがあるので圃場の見回りを徹底し、できるだけ圃場全体の発生状況の把握に努め、防除を行う。なお、8月下旬の要防除水準は株当たり虫数が1頭である。</p> <p>(2) 防除を実施した圃場においてもその後の発生状況に十分注意し、防除効果の確認を行うとともに必要に応じて追加防除を行う。</p> <p>(3) 本虫は株元を好んで寄生するので、薬剤散布は株元に薬剤が十分に付着するよう丁寧に行う。</p> <p>(4) 薬剤散布にあたっては、農薬使用基準を遵守するとともに圃場周辺への薬剤の飛散がないよう十分注意する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>図1 株当たり虫数の推移</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>図2 発生圃場率の推移</p> </div> </div>
注意報第4号	平成19年9月3日	普通期水稻	トビイロウンカ	<p>1. 発生地域(対象地域) 県下全域</p> <p>2. 発生程度 多</p> <p>3. 注意報発令の根拠</p> <p>(1) 8月下旬(8月23～30日)の巡回調査(94筆)の結果、1株当たり虫数は0.39頭(平年0.09頭)と平年より多く(図1)、発生圃場率は48.9%(平年20.2%)と平年より高かった(図2)。1株当たり虫数、発生圃場率ともに坪枯れ被害の多かった平成17年並であった(図1、2)。また、一部圃場では1株当たり虫数が30頭を超える圃場も認められた。さらに、県北部の早植え水稻の一部圃場で坪枯れの発生を確認した。</p> <p>(2) 気象予報(福岡管区气象台、平成19年8月31日発表)によると九州北部の向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。</p>

情報の種類	発表月日	対象作物	対象病害虫	情報内容
				<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">図1 1株当たり虫数の推移</p> <p style="text-align: center;">図2 発生圃場率の推移</p> <p><b>4. 防除対策</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 本虫の発生は圃場間や同一圃場内でも偏りが大きい。このため、圃場の見回りを徹底し、できるだけ圃場全体の発生状況を把握して、防除を行う。9月上旬頃に1株当たり成幼虫数が5頭以上であれば早急に防除する。</li> <li>(2) 防除実施後もその後の発生状況に十分注意し、防除効果の確認を行うとともに必要に応じて追加防除を行う。</li> <li>(3) 本虫は株元を好んで寄生するので、薬剤散布は株元に薬剤が十分に付着するよう丁寧に行う。</li> <li>(4) 薬剤散布にあたっては、農薬使用基準を遵守し、圃場周辺に薬剤の飛散がないよう十分注意する。</li> </ol>
注意報第5号	平成19年9月3日	茶	カンザワハダニ チャノドリヒメヨコバイ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発生地域(対象地域) 県下全域</li> <li>2. 発生程度 多</li> <li>3. 注意報発令の根拠 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)カンザワハダニ <ol style="list-style-type: none"> <li>ア 8月下旬の巡回調査の結果、寄生葉率6.7%(平年0.2%)発生圃場率50%(平年6.3%)と過去10年間で最も多い発生である(図1)。</li> <li>イ 気象予報(福岡管区气象台、平成19年8月31日発表)によると九州北部の向こう1か月の気温は高い見込みであり本虫の発生に好適である。</li> </ol> </li> <li>(2)チャノドリヒメヨコバイ <ol style="list-style-type: none"> <li>ア 本年は5月以降発生が多く、8月下旬の巡回調査でも、たたき落とし(A4板トレイに5回×4カ所)虫数が3.4頭(平年0.7頭)、発生圃場率は87.5%(平年30.5%)と多い発生であった(図2)。</li> <li>イ 九州北部の向こう1か月の気温は高い見込みであり本虫の発生に好適である。</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol> <div style="text-align: center;">  <p style="text-align: center;">図1 巡回調査によるカンザワハダニの発生状況</p> </div>

情報の種類	発表月日	対象作物	対象病害虫	情報内容
				 <p>図2 巡回調査によるチャノミドリヒメヨコバイの発生状況</p> <p>4. 防除対策</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 多発生している圃場では薬剤散布後も発生状況に注意し、再散布を検討する。</li> <li>(2) 葉裏に多く生息するので、薬液が葉裏までかかるよう十分量を丁寧に散布する。</li> <li>(3) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、カンザワハダニでは同一薬剤の使用は年1回にする。また、チャノミドリヒメヨコバイでも同一系統の薬剤を連用しない。</li> </ol>
注意報 第6号	平成19年 10月15日	野菜・ 花き類	オオタバコガ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発生地域(対象地域) 県下全域</li> <li>2. 発生程度 多</li> <li>3. 注意報発令の根拠 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) オオタバコガのフェロモントラップ(諫早市)の誘殺数は10月上旬に急増し、平成10年以降の調査で最高の数値となっている(図)。</li> <li>(2) 10月上旬の巡回調査の結果、ばれいしよでの寄生虫数は0.1頭/株、発生圃場率は55.0%と高い(一昨年は寄生虫数0.02頭/株、発生圃場率15%、昨年は発生を認めなかった)。また、本虫およびヨトウムシ類(ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ)を含めたチョウ目害虫による被害株率も、28.1%(平成7.2%)と高い。</li> <li>(3) 10月中旬の県予察圃場(無防除)の調査の結果、寄生株率はレタスで26%、ブロッコリーで22%であった。</li> <li>(4) 10月上旬の病害虫防除員による報告でも、ばれいしよやレタス等の被害が認められている。</li> <li>(5) 気象予報(福岡管区气象台、平成19年10月12日発表)によると、九州北部の向こう1ヶ月間の気温は平成より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。</li> </ol> </li> </ol>  <p>図 フェロモントラップにおけるオオタバコガ誘殺状況(諫早市) (月・半月)</p> <p>※H19データ:8月13日、14日データ欠測  平成: H10~H18の平均値(最大・小値除く)</p>

情報の種類	発表月日	対象作物	対象病害虫	情報内容
特殊報 第1号	平成20年 2月15日	メロン きゅうり	メロン退緑黄化病 キュウリ退緑黄化 病(仮称)	<p>1 病害虫名      メロン退緑黄化病、キュウリ退緑黄化病(仮称)</p> <p>2 病原ウイルス   ウリ類退緑黄化ウイルス                   Cucurbit chlorotic yellows virus;CCYV(仮称)</p> <p>3 発生物種及び発生場所                   メロン(松浦市、南島原市深江町)、きゅうり(南島原市有家町)</p> <p>4 発生確認の経過</p> <p>(1)平成17年2月及び平成18年2月、冬春作きゅうりにおいて、葉が黄化する症状が南高来郡有家町(当時)で発生した。キュウリ黄化えそ病・黄化病が類似の症状を示すことから、病害虫防除所においてRT-PCR法によりウイルス検定を実施したが、検出されなかった。また、平成19年10月にも松浦市と南島原市深江町のメロンで葉が黄化する症状が確認された。</p> <p>(2)平成16年以降九州各地でウリ類に発生した原因不明の黄化症について、発生要因解明等の共同試験*により、クロステロウイルス科クリニウイルス属の新規ウイルスが検出され、ウイルス病であることが明らかになった。</p> <p>(3)本県において、(1)のきゅうり及びメロンについて、(独)九州沖縄農業研究センターが新たに開発した手法により、病害虫防除所と総合農林試験場が共同でウイルス検定した結果、同種のウイルスが検出され、本ウイルスによるメロン退緑黄化病、キュウリ退緑黄化病の発生が確認された。</p> <p>*農林水産研究高度化事業「果菜類における新規コナジラミ(バイオタイプQ)等防除技術の開発」:(独)野菜茶業研究所、(独)九州沖縄農業研究センター、熊本県、佐賀県、大分県及び宮崎県</p> <p>5 感染植物                   これまでに感染が確認されている植物はメロン、きゅうり、すいかである。</p> <p>6 主な感染植物での症状および被害</p> <p>(1)メロン、きゅうりともはじめ、葉に退緑小斑点が生じ、斑点が増加・癒合しながら黄化、拡大して斑状の黄化葉となる。症状が進展すると斑点状の緑色部分を残して葉の全面が黄化する。きゅうりの場合は葉縁が下側に巻く症状が認められる。</p> <p>(2)メロンでは、下位葉から徐々に中～上位葉に拡大していくが、その程度は下位葉に比べて軽いことが多い。初めに黄化した葉の節位が低いほど、品質や収量へ与える影響も大きく、果実糖度および果実重量の低下と減収が確認されている。</p> <p>(3)きゅうりについては黄化による草勢低下が認められる。</p> <p>(4)類似した症状を示すものに、メロン黄化葉症、オンシツコナジラミが媒介するキュウリ黄化病(病原ウイルスBPYV)がある。</p>



写真1:メロン退緑黄化病が発生した圃場

情報の種類	発表月日	対象作物	対象病害虫	情報内容
				 <p>写真2:キュウリ退緑黄化病が発生した圃場</p>  <p>写真3:メロン退緑黄化病の病徴(退緑小斑点増加、黄化しながら癒合拡大)</p>  <p>写真4:メロン退緑黄化病の病徴(葉脈及び緑斑を残し黄化)</p>  <p>写真5:キュウリ退緑黄化病の病徴(葉脈を残し黄化、下側に葉がまく)</p> <p>7 伝染方法  現在、タバコナジラミバイオタイプ Q が本ウイルスを媒介することが確認されている。ウイルスのその他の媒介特性については試験中である。ただし、クリニウイルスは、半永続媒介で経卵伝染、汁液伝染、土壌伝染、種子伝染しないことが知られている。</p> <p>8 防除対策  (1)媒介虫であるタバコナジラミの施設内への侵入を防止するととも</p>

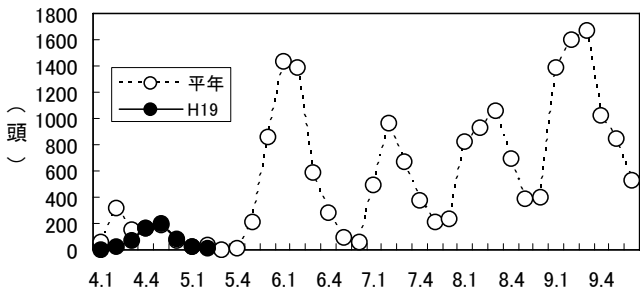
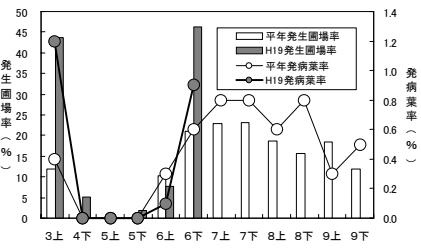
情報の種類	発表月日	対象作物	対象病害虫	情報内容
				<p>に、施設に侵入した個体を薬剤で防除する。特に、育苗期間から生育初期の感染は経済的な被害につながるため、この時期の対策を重視する。</p> <p>(2) 発病した株は伝染源となる。直ちに抜き取りほ場外に持ち出して埋没処分するか、ビニール袋に入れて完全に枯れるまで密閉処理する。</p> <p>(3) 黄色粘着トラップを施設内に設置して媒介虫の早期発見に努める。</p> <p>(4) 未発生地域ではウイルスの侵入を防止するため、発生地域から苗を購入する場合は、ウイルス対策を実施している施設で育苗した苗を購入するなど、十分注意する。</p> <p>(5) ほ場周辺やほ場内の雑草は媒介虫の発生源となるので除草する。</p> <p>(6) 施設栽培では、栽培終了時にハウスを密閉処理し、媒介虫が施設外に飛び出さないようにする。</p> <p>(7) 未発生地域で疑わしい症状が発生した場合は、最寄りの農業改良普及センターや病害虫防除所に連絡する。</p>

## (2) 防除情報、技術情報

情報の種類	発表月日	対象作物	対象病害虫	情報内容
防除情報 第1号	平成19年 4月10日	水稻	ヒメビウンカ 縞葉枯病	<p>ヒメビウンカ(越冬世代)の生息量及びイネ縞葉枯ウイルスの保毒状況について</p> <p>ヒメビウンカの越冬世代においてイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率が高い状況です。近年、保毒虫率が高い傾向が続いており、今後、水稻で縞葉枯病の発生が多くなることが心配されます。下記の点に留意して防除指導をお願いします。</p> <p>1. ヒメビウンカ(越冬世代)の生息量及びイネ縞葉枯ウイルスの保毒状況</p> <p>(1) 平成19年3月6～20日にかけ、県内15地点の水田(1地点当たり概ね5圃場)においてヒメビウンカの生息量調査(吹き出し法)を行った結果、10㎡当たりの虫数は8.1頭(平成11.9頭)と平成よりやや少なかった(図、表)。</p> <p>(2) 上記調査時に採集したヒメビウンカについてイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率調査(ラテックス凝集反応法)を行った。その結果、保毒虫率は5.1%(平成2.3%)と平成より高く(図、表)、過去10ヶ年では平成9年に次ぎ2番目に高かった(図)。</p> <p>2. 防除対策</p> <p>(1) 水稻移植時はウンカ類に効果のある箱施薬剤を施用する。</p> <p>(2) 普通期水稻作付け圃場では、第1世代幼虫のふ化期にあたる4月下旬～5月上旬までに耕起し、ヒメビウンカの密度低減を図る。</p> <p>(3) 育苗圃へのヒメビウンカの飛び込みを防ぐため、イネ科雑草地や麦類圃場付近での育苗を避ける。</p> <p>(4) 窒素過多は縞葉枯病の発生を助長するので適正な肥培管理に努める。</p>



情報の種類	発表月日	対象作物	対象病害虫	情報内容																																																																								
				<p>表 各地点におけるヒメトビウンカ(越冬世代)の生息量及びイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>調査地点</th> <th>生息量 (頭/10㎡)</th> <th>検定虫数 (頭)</th> <th>保毒虫率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>長崎市神浦</td><td>9.4</td><td>59</td><td>1.7</td></tr> <tr><td>長崎市琴海戸根</td><td>22.2</td><td>200</td><td>7.5</td></tr> <tr><td>西海市大瀬戸町多以良</td><td>10.8</td><td>101</td><td>5.0</td></tr> <tr><td>諫早市川内町</td><td>2.6</td><td>77</td><td>5.2</td></tr> <tr><td>諫早市森山町田尻</td><td>4.7</td><td>159</td><td>1.9</td></tr> <tr><td>諫早市多良見町元釜</td><td>11.0</td><td>200</td><td>15.5</td></tr> <tr><td>諫早市小船越町</td><td>1.4</td><td>26</td><td>3.8</td></tr> <tr><td>大村市鈴田</td><td>82.0</td><td>200</td><td>3.0</td></tr> <tr><td>東彼杵町三根</td><td>33.2</td><td>165</td><td>3.0</td></tr> <tr><td>雲仙市吾妻町干拓</td><td>46.7</td><td>2 00</td><td>3.5</td></tr> <tr><td>雲仙市国見町神代</td><td>8.1</td><td>150</td><td>2.7</td></tr> <tr><td>佐世保市長畑</td><td>7.1</td><td>200</td><td>5.5</td></tr> <tr><td>佐世保市早岐</td><td>3.1</td><td>100</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>松浦市志佐</td><td>0.3</td><td>6</td><td>0</td></tr> <tr><td>平戸市紐差</td><td>1.0</td><td>50</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>県 全 体</td><td>8.1</td><td>1893</td><td>5.1</td></tr> <tr><td>平 年 値</td><td>11.9</td><td>—</td><td>2.3</td></tr> </tbody> </table>	調査地点	生息量 (頭/10㎡)	検定虫数 (頭)	保毒虫率 (%)	長崎市神浦	9.4	59	1.7	長崎市琴海戸根	22.2	200	7.5	西海市大瀬戸町多以良	10.8	101	5.0	諫早市川内町	2.6	77	5.2	諫早市森山町田尻	4.7	159	1.9	諫早市多良見町元釜	11.0	200	15.5	諫早市小船越町	1.4	26	3.8	大村市鈴田	82.0	200	3.0	東彼杵町三根	33.2	165	3.0	雲仙市吾妻町干拓	46.7	2 00	3.5	雲仙市国見町神代	8.1	150	2.7	佐世保市長畑	7.1	200	5.5	佐世保市早岐	3.1	100	2.0	松浦市志佐	0.3	6	0	平戸市紐差	1.0	50	2.0	県 全 体	8.1	1893	5.1	平 年 値	11.9	—	2.3
調査地点	生息量 (頭/10㎡)	検定虫数 (頭)	保毒虫率 (%)																																																																									
長崎市神浦	9.4	59	1.7																																																																									
長崎市琴海戸根	22.2	200	7.5																																																																									
西海市大瀬戸町多以良	10.8	101	5.0																																																																									
諫早市川内町	2.6	77	5.2																																																																									
諫早市森山町田尻	4.7	159	1.9																																																																									
諫早市多良見町元釜	11.0	200	15.5																																																																									
諫早市小船越町	1.4	26	3.8																																																																									
大村市鈴田	82.0	200	3.0																																																																									
東彼杵町三根	33.2	165	3.0																																																																									
雲仙市吾妻町干拓	46.7	2 00	3.5																																																																									
雲仙市国見町神代	8.1	150	2.7																																																																									
佐世保市長畑	7.1	200	5.5																																																																									
佐世保市早岐	3.1	100	2.0																																																																									
松浦市志佐	0.3	6	0																																																																									
平戸市紐差	1.0	50	2.0																																																																									
県 全 体	8.1	1893	5.1																																																																									
平 年 値	11.9	—	2.3																																																																									
防除情報 第2号	平成19年 4月17日	ばれいしょ	疫病	<p>ばれいしょの疫病が、今後の気象次第では発生することが予想されますので、下記のとおり防除指導をお願いします。</p> <p>1. 発生状況  (1)4月中旬～下旬に断続的な降雨が続く見込みであり、本病の発生に好適である。  (2)初発生を4月16日に雲仙市愛野町の一部で確認した。</p> <p>2. 防除対策  (1)本病は発生すると急激に進展・蔓延し被害が大きくなるので、予防防除に重点をおく。  (2)圃場の見回りを徹底し、発生状況を観察する。発生を認めたら直ちに薬剤散布する。その後は本病の進展状況に応じて7～10日毎に薬剤散布する(薬剤は防除基準参照)。  (3)薬剤散布は、薬剤が下葉に達するように、十分量を散布する。  (4)塊茎への感染を防止するため、圃場の排水対策を徹底する。  (5)収穫時期が近づいているので、薬剤散布に際しては農薬の使用基準を遵守する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;"> <span>図1 葉の病徴</span> <span style="margin-left: 100px;">図2 茎の病徴</span> </p>																																																																								

情報の種類	発表月日	対象作物	対象病害虫	情報内容
防除情報 第3号	平成19年 5月15日	茶	チャノホソガ	<p>茶のチャノホソガの発生が増加しています。下記の点に注意して防除指導をお願いします。</p> <p>1. 発生状況</p> <p>(1) 5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は2.3枚(平年0.0枚)、発生圃場率は50.0%(6.3%)であり、平年より発生が多い。</p> <p>(2) 世知原町における発生量は、1㎡当たり巻葉数が6.5枚で、発生が特に多くなっている。</p> <p>(3) 東彼杵町における発生量は、1㎡当たり巻葉数が0.2枚で平年並であった。フェロモントラップによる誘殺量(東彼杵茶業支場調査)も平年並であった(図)。</p>  <p>図 チャノホソガの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ) ※平年値は平成9～18年の平均値 (月・半月)</p> <p>2. 防除対策</p> <p>(1) 二番茶での多発が予想されるので、萌芽～開葉期に薬剤を散布する。</p> <p>(2) 合成ピレスロイド剤の散布後、カンザワハダニやチャノホコリダニの発生が増加する場合がありますので注意する。</p> <p>(3) 新葉を対象に薬剤散布を行うことになるので、農薬の使用時期に十分注意する。</p>
防除情報 第4号	平成19年 7月2日	かんきつ	かいよう病	<p>かんきつのかいよう病の発生が多くなっています。既に梅雨期に入っており、今後急速に被害が広がる可能性がありますので、下記の点に留意して防除指導をお願いします。</p> <p>1. 発生状況等</p> <p>(1) 3月上旬の巡回調査の結果、越冬病斑の発病葉率が1.2%(平年0.4%)、発生圃場率は46.2%(平年17.8%)と平年より発生が多かった。</p> <p>(2) 6月下旬の巡回調査の結果、発病葉率0.9%(平年0.6%)、発生圃場率は46.2%(平年22.1%)であり、発生が増加傾向にある(図)。</p> <p>(3) 6月の降雨量が少ない環境でも、発病葉が多い。また、6月27日から7月2日にかけて強風、降雨が続き、さらに今後は平年並みの降雨量が予想されており、本病の発生が広がる可能性が高い。</p>  <p>図 かいよう病(葉)の発生の推移</p> <p>注: 3月上旬は旧葉、4月下旬以降は新葉の調査結果</p>

情報の種類	発表月日	対象作物	対象病害虫	情報内容																											
				<p>2. 防除上注意すべき事項</p> <p>(1) 発病枝や葉は伝染源となるのでできるだけ除去する。</p> <p>(2) 昨年かんきつ類でストレプトマイシン剤の登録が失効したため、台風接近時に散布する薬剤は銅剤となるが、銅剤は高温時に散布すると葉害を生じることがある。そのため、梅雨期までに発病をできるだけ抑える必要があり、春葉に発病が認められる園等では、早めの薬剤散布による防除を検討する。</p> <p>(3) 強風による傷から感染しやすいので、今後の気象状況に注意し、台風が予想される場合は台風接近前に薬剤散布を行う。</p> <p>(4) 各品種による耐病性は下表のとおりである。耐病性が弱い品種は特に注意する。また、温州みかんでは「させぼ温州」が耐病性が弱い。</p> <p>表 かいよう病に対する各品種の耐病性(県病害虫防除基準より)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>耐病性</th> <th>品 種 名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>弱い</td> <td>グレープフルーツ、ネーブル</td> </tr> <tr> <td>やや弱い</td> <td>ナツダイダイ、宮内イヨカン、天草、ありあけ</td> </tr> <tr> <td>中程度</td> <td>温州みかん、清見、不知火、南香</td> </tr> <tr> <td>強い</td> <td>ハッサク、ボンカン、ユズ、キンカン、日向夏</td> </tr> </tbody> </table> <p>(5) 薬剤散布に当たっては、使用基準を遵守する。</p>	耐病性	品 種 名	弱い	グレープフルーツ、ネーブル	やや弱い	ナツダイダイ、宮内イヨカン、天草、ありあけ	中程度	温州みかん、清見、不知火、南香	強い	ハッサク、ボンカン、ユズ、キンカン、日向夏																	
耐病性	品 種 名																														
弱い	グレープフルーツ、ネーブル																														
やや弱い	ナツダイダイ、宮内イヨカン、天草、ありあけ																														
中程度	温州みかん、清見、不知火、南香																														
強い	ハッサク、ボンカン、ユズ、キンカン、日向夏																														
防除情報 第5号	平成19年 7月2日	かんきつ	チャノキイロ アザミウマ	<p>かんきつのチャノキイロアザミウマの被害が多くなっています。下記の点に留意して防除指導をお願いします。</p> <p>1. 発生状況</p> <p>(1) 6月下旬の巡回調査の結果、果梗部での被害果率0.4%(平成0.0%)、発生圃場率は20.5%(平成0.7%)で、過去10年間で最も大きい被害果率及び発生圃場率となっている。</p> <p>(2) 黄色粘着トラップ(諫早市)での誘殺量は、ほぼ平成並みに推移しており、発生時期はやや早い(図)。</p> <div style="text-align: center;"> <p>図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況(諫早:黄色粘着トラップ) ※平成は平成9～18年の平均</p> </div> <p>2. 防除対策</p> <p>(1) 下表の予測発生ピーク日5日前からピーク日の間に薬剤散布をすると防除効果が高い。</p> <p>(2) ただし、発生が多い園では1果当たりの寄生虫数が、0.1頭に達する前に防除を行う。</p> <p>(3) 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。</p> <p>表 チャノキイロアザミウマ発生予測プログラムによる成虫(第4世代)の予測発生ピーク日</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地区名</th> <th>多良見 元船</th> <th>長与 吉無田</th> <th>西彼 大串</th> <th>諫早 川内</th> <th>大村 小路口</th> <th>佐世保 早岐</th> <th>国見 神代</th> <th>北有馬 谷川</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本年</td> <td>7/19</td> <td>7/18</td> <td>7/23</td> <td>7/16</td> <td>7/19</td> <td>7/20</td> <td>7/17</td> <td>7/15</td> </tr> <tr> <td>平成</td> <td>7/21</td> <td>7/20</td> <td>7/26</td> <td>7/18</td> <td>7/21</td> <td>7/23</td> <td>7/18</td> <td>7/17</td> </tr> </tbody> </table> <p>注1: プログラムに使用する気温データには、ながさき農林業情報システム 500m メッシュを利用した。</p> <p>注2: 平成19年7月2日現在で予測し(1月1日～6月30日まで実測値)、7月1日以降のデータは過去10年間の平均値を利用した。</p>	地区名	多良見 元船	長与 吉無田	西彼 大串	諫早 川内	大村 小路口	佐世保 早岐	国見 神代	北有馬 谷川	本年	7/19	7/18	7/23	7/16	7/19	7/20	7/17	7/15	平成	7/21	7/20	7/26	7/18	7/21	7/23	7/18	7/17
地区名	多良見 元船	長与 吉無田	西彼 大串	諫早 川内	大村 小路口	佐世保 早岐	国見 神代	北有馬 谷川																							
本年	7/19	7/18	7/23	7/16	7/19	7/20	7/17	7/15																							
平成	7/21	7/20	7/26	7/18	7/21	7/23	7/18	7/17																							

情報の種類	発表月日	対象作物	対象病害虫	情報内容																																																																																																																																																																																									
				注3: 発生ピーク日は各地区の選果場(佐世保は旧選果場)がある地点で算出している。同一地区内の山間部では、表より10日～2週間程度遅れる。																																																																																																																																																																																									
防除情報 第6号	平成19年 7月6日	水稻	セジロウンカ トビロウンカ	<p>6月5半旬以降、セジロウンカ、トビロウンカの飛来が断続的に認められています。これまでの飛来状況は下記のとおりですので圃場での発生に注意してください。</p> <p>1. 飛来状況 (1)セジロウンカ ア 6月5半旬から7月1半旬にかけて断続的に飛来があり、6月24～27日、6月30日～7月4日にかけてまとまった飛来が認められた(表)。 イ 県予察圃場(普通期、無防除、諫早市)調査の結果、6月25日、7月3、5日の株当たり成虫数はそれぞれ0.5頭、3.3頭、2.8頭であった。</p> <p>(2)トビロウンカ ア 6月24日に予察灯(諫早市、白熱灯)で誘殺を初確認した(平成6月12日)。その後、7月2～4日にやや多い飛来が認められた(表)。 イ 県予察圃場(普通期、無防除、諫早市)調査の結果、6月25日、7月3、5日の株当たり成虫数は、それぞれ0頭、0.1頭、0.1頭であった。</p> <p>2. 防除対策 (1)セジロウンカ ア 6月以降に移植しウンカ類に効果のある箱施薬剤を処理していない圃場で、飛来成虫数が株当たり10頭以上認められる場合は、早急に防除を行う。また、ウンカ類に効果のある箱施薬剤を用いた圃場でも発生状況に注意する。 イ 地域や圃場によって飛来・発生状況が異なることがあるのでそれぞれの圃場における発生状況に注意する。 ウ さらに飛来が続くと考えられるので今後の飛来及び圃場での発生状況に注意する。</p> <p>(2)トビロウンカ ア さらに飛来が続くと考えられるので今後の飛来及び圃場での発生状況に注意する。</p> <p>表 予察灯及びネットトラップにおける誘殺状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">月日</th> <th colspan="5">セジロウンカ</th> <th colspan="5">トビロウンカ</th> </tr> <tr> <th colspan="2">諫早</th> <th>島原</th> <th>佐世保</th> <th>岐宿</th> <th colspan="2">諫早</th> <th>島原</th> <th>佐世保</th> <th>岐宿</th> </tr> <tr> <th>白色灯</th> <th>ネットトラップ</th> <th>白色灯</th> <th>白色灯</th> <th>白色灯</th> <th>白色灯</th> <th>ネットトラップ</th> <th>白色灯</th> <th>白色灯</th> <th>白色灯</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6.21</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>22</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>23</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>87</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>24</td> <td>83</td> <td>54</td> <td>31</td> <td>62</td> <td>25</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>25</td> <td>31</td> <td>1</td> <td>1035</td> <td>6</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>26</td> <td>48</td> <td>3</td> <td>67</td> <td>9</td> <td>13</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>27</td> <td>23</td> <td>1</td> <td>176</td> <td>112</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>28</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>10</td> <td>142</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>29</td> <td>5</td> <td>1</td> <td></td> <td>0</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>59</td> <td>0</td> <td></td> <td>7</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>0</td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>7. 1</td> <td>5</td> <td>1</td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>46</td> <td>4</td> <td></td> <td>10</td> <td></td> <td>4</td> <td>0</td> <td></td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>208</td> <td>4</td> <td></td> <td>652</td> <td></td> <td>2</td> <td>0</td> <td></td> <td>8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>92</td> <td>92</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>8</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 白色灯: 60W白熱灯      注2) 空欄日は今後集計予定</p>	月日	セジロウンカ					トビロウンカ					諫早		島原	佐世保	岐宿	諫早		島原	佐世保	岐宿	白色灯	ネットトラップ	白色灯	白色灯	白色灯	白色灯	ネットトラップ	白色灯	白色灯	白色灯	6.21	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	22	6	0	6	0	0	0	0	0	0	0	23	2	0	87	0	1	0	0	0	0	0	24	83	54	31	62	25	4	0	0	3	3	25	31	1	1035	6	1	0	0	3	0	0	26	48	3	67	9	13	0	0	0	0	0	27	23	1	176	112	0	0	0	0	1	0	28	0	2	10	142	0	0	0	0	0	0	29	5	1		0	3	0	0		0	0	30	59	0		7	2	3	0		0	0	7. 1	5	1		0	0	0	0		0	0	2	46	4		10		4	0		0		3	208	4		652		2	0		8		4	92	92				8	1			
月日	セジロウンカ					トビロウンカ																																																																																																																																																																																							
	諫早		島原	佐世保		岐宿	諫早		島原	佐世保	岐宿																																																																																																																																																																																		
	白色灯	ネットトラップ	白色灯	白色灯	白色灯	白色灯	ネットトラップ	白色灯	白色灯	白色灯																																																																																																																																																																																			
6.21	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																			
22	6	0	6	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																			
23	2	0	87	0	1	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																			
24	83	54	31	62	25	4	0	0	3	3																																																																																																																																																																																			
25	31	1	1035	6	1	0	0	3	0	0																																																																																																																																																																																			
26	48	3	67	9	13	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																			
27	23	1	176	112	0	0	0	0	1	0																																																																																																																																																																																			
28	0	2	10	142	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																			
29	5	1		0	3	0	0		0	0																																																																																																																																																																																			
30	59	0		7	2	3	0		0	0																																																																																																																																																																																			
7. 1	5	1		0	0	0	0		0	0																																																																																																																																																																																			
2	46	4		10		4	0		0																																																																																																																																																																																				
3	208	4		652		2	0		8																																																																																																																																																																																				
4	92	92				8	1																																																																																																																																																																																						

情報の種類	発表月日	対象作物	対象病害虫	情報内容
防除情報 第7号	平成19年 7月17日	普通期 水稲	コブノメイガ トビイロウンカ	<p>6月5半旬以降、コブノメイガ、トビイロウンカの飛来が断続的に認められています。これまでの飛来・発生状況は下記のとおりですので圃場での発生に注意して防除の徹底をお願いします。</p> <p>1. 飛来・発生状況</p> <p>(1)コブノメイガ</p> <p>ア 6月5半旬以降、断続的に飛来が認められ、7月4～5日には多飛来があった(表1)。</p> <p>イ 7月1～3半旬の巡回調査(普通期、114筆)の結果、食害株率は0.1%(平成2.9%)、10㎡当たりの成虫数は2.2頭(平成 0.1頭)であった。</p> <p>ウ 7月13日の県予察圃場(普通期、無防除、諫早市)調査の結果、食害株率は92.0%で、虫齢は若齢幼虫が主体であった。</p> <p>(2)トビイロウンカ</p> <p>ア 6月5半旬以降断続的に飛来があり、7月3～6日にかけてやや多い飛来が認められた(表2)。</p> <p>イ 7月1～3半旬の巡回調査(普通期、114筆)の結果、株当たり虫数は0.01頭(平成0.00頭)、発生圃場率11.4%(平成 2.3%)ですべて成虫であった。株当たり成虫数が0.1～0.3頭と多い圃場も認められた。</p> <p>ウ 7月7日の県予察圃場(普通期、無防除、諫早市)調査の結果、株当たり成虫数は0.2頭であった。</p> <p>2. 防除対策</p> <p>(1)コブノメイガ</p> <p>ア 薬剤散布は、粉剤・液剤では成虫発生最盛期の7～10日後、粒剤では成虫発生最盛期に行う。なお、粒剤は効果を安定させるため散布後7日間止水する。</p> <p>イ 各飛来波の今後の生育予測は図のとおりであるが、地域や圃場により発生状況が異なることがあるので圃場の見回りを徹底し、それぞれの圃場における発生状況を把握した上で防除を行う。</p> <p>(2)トビイロウンカ</p> <p>ア 今後の圃場での発生状況に注意し、7月下旬～8月上旬にかけて100株当たり20頭以上の成虫の寄生が認められる場合は、それらの次世代幼虫期に防除を行う。</p> <p>イ 株元に多く寄生するので薬剤散布にあたっては株元に薬剤が十分付着するよう丁寧に散布する。</p> <p>ウ 圃場間や同一圃場内でも偏って発生していることが多いので、できるだけ圃場の見回りを徹底する。また、各飛来波の今後の発生予測は図のとおりであるが、地域や圃場により発生状況が異なることがあるので、それぞれの圃場における発生状況を把握した上で防除を行う。</p> <p>(3)薬剤散布にあたっては圃場周辺に薬剤が飛散しないよう十分注意する。</p>

情報の種類	発表月日	対象作物	対象病害虫	情報内容																																																																																																																																																																																																																																																															
				<p>表1 コブノメイガの誘殺状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">月日</th> <th rowspan="2">蛍光灯 採集箱 (頭)</th> <th rowspan="2">追い出し 成虫数 (頭/10㎡)</th> <th colspan="6">フェロモントラップ(頭)</th> </tr> <tr> <th>諫早市 小船越</th> <th>諫早市 小野</th> <th>長崎市 琴海戸根</th> <th>佐世保市 八の久保</th> <th>五島市 籠淵</th> <th>対馬市 上県</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>6.21</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>0</td></tr> <tr><td>22</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>0</td><td></td></tr> <tr><td>23</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td></td><td>0</td><td></td><td>0</td><td></td></tr> <tr><td>24</td><td>0</td><td>0</td><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td>0</td><td>0</td><td></td></tr> <tr><td>25</td><td>0</td><td>0.1</td><td>0</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>0</td><td></td></tr> <tr><td>26</td><td>0</td><td>0.6</td><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>27</td><td>0</td><td>0.4</td><td>0</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>0</td><td></td></tr> <tr><td>28</td><td>0</td><td>0.1</td><td>0</td><td></td><td></td><td>1</td><td></td><td>0</td><td></td></tr> <tr><td>29</td><td>0</td><td>0.1</td><td>0</td><td></td><td>0</td><td></td><td></td><td>0</td><td></td></tr> <tr><td>30</td><td>0</td><td>0.1</td><td>10</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>7. 1</td><td>0</td><td>1.1</td><td>4</td><td></td><td></td><td>6</td><td></td><td>5</td><td>8</td></tr> <tr><td>2</td><td>0</td><td>1.4</td><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td>15</td><td>5</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>1</td><td>1.2</td><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>7</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>3</td><td>1.2</td><td>5</td><td></td><td>1</td><td></td><td>23</td><td>6</td><td>4</td></tr> <tr><td>5</td><td>19</td><td>11.3</td><td>31</td><td></td><td>2</td><td>2 2 7</td><td></td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>14</td><td>18.2</td><td>18</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>5</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>16</td><td>12.9</td><td>28</td><td></td><td>5</td><td></td><td></td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>15</td><td>20.1</td><td>12</td><td></td><td>2</td><td>153</td><td>49</td><td>2</td><td>10</td></tr> <tr><td>9</td><td>7</td><td>16.2</td><td>9</td><td></td><td>1</td><td></td><td></td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>7</td><td>13.3</td><td>8</td><td></td><td>0</td><td></td><td>17</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>4</td><td>15.7</td><td>13</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>8</td></tr> <tr><td>12</td><td>8</td><td>15.0</td><td>8</td><td></td><td>0</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td>-</td><td>12.8</td><td>-</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>合計 (平年値)</td> <td>82 (5.8)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) 蛍光灯採集箱(15w白色蛍光灯)は諫早市小船越に設置  注2) 追い出し成虫数は県予察圃場(早期、無防除、諫早市小船越)の100㎡調査における成虫数を10㎡当りに換算  注3) フェロモントラップの諫早市小野、長崎市琴海戸根、佐世保市八の久保、対馬市上県は数日間まとめて調査した数値を示す  注4) 合計は6月～7月2半月の総数、平年値はH9～18年の最大・小値を除いた平均値  注5) フェロモントラップはH18以降の調査開始なので平年値無し  注6) 7月9日以降の空欄日は今後集計予定、-は欠測</p>	月日	蛍光灯 採集箱 (頭)	追い出し 成虫数 (頭/10㎡)	フェロモントラップ(頭)						諫早市 小船越	諫早市 小野	長崎市 琴海戸根	佐世保市 八の久保	五島市 籠淵	対馬市 上県	6.21	0	0	0					1	0	22	0	0	0					0		23	0	0	0			0		0		24	0	0	3				0	0		25	0	0.1	0					0		26	0	0.6	5					0	0	27	0	0.4	0					0		28	0	0.1	0			1		0		29	0	0.1	0		0			0		30	0	0.1	10					1		7. 1	0	1.1	4			6		5	8	2	0	1.4	1				15	5		3	1	1.2	4					7		4	3	1.2	5		1		23	6	4	5	19	11.3	31		2	2 2 7		2		6	14	18.2	18					5		7	16	12.9	28		5			2		8	15	20.1	12		2	153	49	2	10	9	7	16.2	9		1			1		10	7	13.3	8		0		17			11	4	15.7	13						8	12	8	15.0	8		0					13	-	12.8	-							合計 (平年値)	82 (5.8)								
月日	蛍光灯 採集箱 (頭)	追い出し 成虫数 (頭/10㎡)	フェロモントラップ(頭)																																																																																																																																																																																																																																																																
			諫早市 小船越	諫早市 小野	長崎市 琴海戸根	佐世保市 八の久保	五島市 籠淵	対馬市 上県																																																																																																																																																																																																																																																											
6.21	0	0	0					1	0																																																																																																																																																																																																																																																										
22	0	0	0					0																																																																																																																																																																																																																																																											
23	0	0	0			0		0																																																																																																																																																																																																																																																											
24	0	0	3				0	0																																																																																																																																																																																																																																																											
25	0	0.1	0					0																																																																																																																																																																																																																																																											
26	0	0.6	5					0	0																																																																																																																																																																																																																																																										
27	0	0.4	0					0																																																																																																																																																																																																																																																											
28	0	0.1	0			1		0																																																																																																																																																																																																																																																											
29	0	0.1	0		0			0																																																																																																																																																																																																																																																											
30	0	0.1	10					1																																																																																																																																																																																																																																																											
7. 1	0	1.1	4			6		5	8																																																																																																																																																																																																																																																										
2	0	1.4	1				15	5																																																																																																																																																																																																																																																											
3	1	1.2	4					7																																																																																																																																																																																																																																																											
4	3	1.2	5		1		23	6	4																																																																																																																																																																																																																																																										
5	19	11.3	31		2	2 2 7		2																																																																																																																																																																																																																																																											
6	14	18.2	18					5																																																																																																																																																																																																																																																											
7	16	12.9	28		5			2																																																																																																																																																																																																																																																											
8	15	20.1	12		2	153	49	2	10																																																																																																																																																																																																																																																										
9	7	16.2	9		1			1																																																																																																																																																																																																																																																											
10	7	13.3	8		0		17																																																																																																																																																																																																																																																												
11	4	15.7	13						8																																																																																																																																																																																																																																																										
12	8	15.0	8		0																																																																																																																																																																																																																																																														
13	-	12.8	-																																																																																																																																																																																																																																																																
合計 (平年値)	82 (5.8)																																																																																																																																																																																																																																																																		
防除情報 第8号	平成19年 7月17日	なし	ナシヒメシンクイ	<p>ナシヒメシンクイの発生が多くなっています。7月は重要な防除時期になりますので、下記の点に留意して防除指導をお願いします。</p> <p>1. 発生状況  (1) フェロモントラップの誘殺量は、4月以降現在まで多い状況が続いており、特に第2世代の発生量が平年より多くなっている(図)。  (2) 病害虫防除員の報告によると、本虫によるもの心折れ及び果実での被害が多かった。</p> <p>図 ナシヒメシンクイの誘殺状況(諫早:フェロモントラップ)  ※平年値は平成9～18年の平均</p>																																																																																																																																																																																																																																																															

情報の種類	発表月日	対象作物	対象病害虫	情報内容
				<p>2. 防除対策</p> <p>(1) 各園での発生状況に注意し、発生が多い園では、10日程度おきに薬剤散布による防除を行う。</p> <p>(2) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため同系統の薬剤を連用しない。</p> <p>(3) 薬剤散布に当たっては、農薬使用基準を遵守する。</p>
防除情報 第9号	平成19年 8月16日	普通期 水稲	コブノメイガ	<p>7月6半旬以降、コブノメイガ成虫の発生が多い状況が続いています。下記の点に留意して防除対策の徹底をお願いします。</p> <p>1. 発生状況</p> <p>(1) 8月上旬の巡回調査(114筆)の結果、食害株率は24.8% (平年15.4%)、発生圃場率は84.2%(平年79.6%)であった。追い出し調査による10㎡当たりの成虫数は20.4頭(平年3.2頭)と多く、7月10日以降の飛来波の第1世代と考えられる成虫の発生が多い圃場も認められる。</p> <p>(2) 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、食害株率は52.0%(35.5%)であった。</p> <p>2. 防除対策</p> <p>(1) 8月3半旬に成虫の発生が多かった圃場では、8月2～3半旬に粉剤や水和剤による防除または8月1半旬に粒剤による防除を行っていても、上位葉に被害を生じると思われる。このため、8月4半旬後半から8月5半旬にかけて粉剤または水和剤による追加防除を行う。なお、8月2半旬以降に粒剤の散布を行った圃場では防除の必要はない。</p> <p>(2) 8月4～5半旬に出穂・穂揃い期を迎える圃場ではトビイロウンカやカメムシ類との同時防除を行う。</p> <p>(3) 薬剤散布にあたっては、農薬使用基準を遵守するとともに、圃場周辺への薬剤の飛散がないよう十分注意する。</p>

情報の種類	発表月日	対象作物	対象病害虫	情報内容																																																																																
防除情報 第10号	平成19年 9月14日	いちご	ハダニ類	<p>ハダニ類の発生がやや多い傾向で推移しています。下記の点に留意して防除指導をお願いします。</p> <p>1. 発生状況</p> <p>(1) 巡回調査において、ハダニ類の発生圃場率は育苗期間を通して高く推移している(図1)。また、9月上旬(32筆)の寄生株率は3.6%(平年2.4%)、発生圃場率は31.3%(平年12.4%)とやや多い発生であった。</p> <p>(2) 向こう1ヶ月の気温は平年より高い見込みであり本種の発生に好適である。</p> <div data-bbox="699 584 1251 898" data-label="Figure"> <table border="1"> <caption>図1 いちごハダニの発生圃場率の推移</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>H19 (%)</th> <th>H18 (%)</th> <th>平年 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>5前</td><td>38</td><td>0</td><td>10</td></tr> <tr><td>5後</td><td>52</td><td>15</td><td>20</td></tr> <tr><td>6前</td><td>30</td><td>15</td><td>15</td></tr> <tr><td>6後</td><td>22</td><td>5</td><td>15</td></tr> <tr><td>7前</td><td>5</td><td>0</td><td>5</td></tr> <tr><td>7後</td><td>40</td><td>10</td><td>10</td></tr> <tr><td>8前</td><td>22</td><td>15</td><td>15</td></tr> <tr><td>8後</td><td>70</td><td>22</td><td>22</td></tr> <tr><td>9前</td><td>30</td><td>12</td><td>12</td></tr> </tbody> </table> <p>図1 いちごハダニの発生圃場率の推移 平年:H9~H18の平均値(最大・小値除く)</p> </div> <div data-bbox="730 1048 1315 1361" data-label="Figure"> <table border="1"> <caption>図2 いちごハダニの寄生株率の推移</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>H19 (%)</th> <th>H18 (%)</th> <th>平年 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>5前</td><td>6.2</td><td>0</td><td>1.0</td></tr> <tr><td>5後</td><td>7.0</td><td>0.8</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>6前</td><td>5.2</td><td>0.8</td><td>1.2</td></tr> <tr><td>6後</td><td>1.2</td><td>0.2</td><td>1.2</td></tr> <tr><td>7前</td><td>0.8</td><td>0.2</td><td>0.8</td></tr> <tr><td>7後</td><td>2.0</td><td>3.2</td><td>1.8</td></tr> <tr><td>8前</td><td>1.8</td><td>2.5</td><td>3.5</td></tr> <tr><td>8後</td><td>4.2</td><td>1.2</td><td>3.5</td></tr> <tr><td>9前</td><td>3.6</td><td>2.5</td><td>2.5</td></tr> </tbody> </table> <p>図2 いちごハダニの寄生株率の推移 平年:H9~H18の平均値(最大・小値除く)</p> </div> <p>2. 防除対策</p> <p>(1) 発生を認めたら定植までに徹底した防除を行う。</p> <p>(2) 葉裏に多く寄生するので、定植後の防除は葉が繁茂する前や不要な下葉を除去した後、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。</p> <p>(3) 薬剤感受性が低下しやすいので、同一薬剤は連用しない。</p> <p>(4) パロックフロアブルは、いちごのナミハダニに対して感受性低下の事例が認められるので注意する。</p>	時期	H19 (%)	H18 (%)	平年 (%)	5前	38	0	10	5後	52	15	20	6前	30	15	15	6後	22	5	15	7前	5	0	5	7後	40	10	10	8前	22	15	15	8後	70	22	22	9前	30	12	12	時期	H19 (%)	H18 (%)	平年 (%)	5前	6.2	0	1.0	5後	7.0	0.8	2.0	6前	5.2	0.8	1.2	6後	1.2	0.2	1.2	7前	0.8	0.2	0.8	7後	2.0	3.2	1.8	8前	1.8	2.5	3.5	8後	4.2	1.2	3.5	9前	3.6	2.5	2.5
時期	H19 (%)	H18 (%)	平年 (%)																																																																																	
5前	38	0	10																																																																																	
5後	52	15	20																																																																																	
6前	30	15	15																																																																																	
6後	22	5	15																																																																																	
7前	5	0	5																																																																																	
7後	40	10	10																																																																																	
8前	22	15	15																																																																																	
8後	70	22	22																																																																																	
9前	30	12	12																																																																																	
時期	H19 (%)	H18 (%)	平年 (%)																																																																																	
5前	6.2	0	1.0																																																																																	
5後	7.0	0.8	2.0																																																																																	
6前	5.2	0.8	1.2																																																																																	
6後	1.2	0.2	1.2																																																																																	
7前	0.8	0.2	0.8																																																																																	
7後	2.0	3.2	1.8																																																																																	
8前	1.8	2.5	3.5																																																																																	
8後	4.2	1.2	3.5																																																																																	
9前	3.6	2.5	2.5																																																																																	



情報の種類	発表月日	対象作物	対象病害虫	情報内容
防除情報 第11号	平成19年 9月14日	野菜・ 花き類	オオタバコガ	<p>オオタバコガの発生が多くなっていますので、下記の点に留意して防除指導をお願いします。</p> <p>1. 発生状況</p> <p>(1)フェロモントラップの誘殺量は、5月以降平年より多い状態が続いている(図)。</p> <p>(2)特に9月1半月、2半月の誘殺量は、10月上旬以降に被害が多発した平成16年より多くなっている(図)。</p> <p>図 フェロモントラップにおけるオオタバコガ誘殺状況(諫早市) ※H19データ:8月13日、14日データ欠測 平年:H10～H18の平均値(最大・小値除く)</p> <p>(月・半月)</p> <p>2. 防除対策</p> <p>(1)本種は生長点付近や茎葉の上方部分や蕾などに一粒ずつ産卵し、ふ化した幼虫は新芽や展開前の葉などを加害するので、圃場をよく観察して早期発見に努める。</p> <p>(2)老齢幼虫になると薬剤の効果が低下する。また中齢以降は結球部や果実、花蕾等に食入して薬剤がかかりにくくなるので、若齢期のうちに防除する。</p> <p>(3)被害部位(果実・花蕾・新芽等)や摘心・摘花した腋芽や花蕾などは、卵や幼虫が寄生して発生源となることがあるため、圃場内に放置せず、圃場外に持ち出して処分する。</p>
防除情報 第12号	平成19年 10月3日	野菜・ 花き類	ハスモンヨトウ	<p>ハスモンヨトウの発生が一部の作物で多くなっていますので、下記の点に留意して防除指導をお願いします。</p> <p>1. 発生状況等</p> <p>(1)9月下旬の巡回調査の結果、発生状況は次の通りである。</p> <p>ア レタスにおける発生圃場率は30.0%(平年9.9%)、寄生株率は2.4%(平年 0.4%)と多い発生であった(図1, 2)。</p> <p>イ いちご(本圃)における発生圃場率は65.4%(平年66.1%)、被害株率は6.4%(平年9.3%)と平年並であった。</p> <p>ウ ブロccoliにおける発生圃場率は58.3%、寄生株率は15.3%であった。</p> <p>エ ばれいしょにおけるヨトウムシ類(ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、ヨトウムシ)の調査では、食害発生圃場率は44.4%(平年25.3%)、被害株率は4.3%(平年2.9%)とやや多い発生であった(図3, 4)。</p> <p>(2)10月上旬の県予察圃場(無防除)における調査の結果、本虫の寄生株率はレタスで72%、ブロッコリーで74%であった。</p> <p>(3)病害虫防除員による調査報告では、ばれいしょ、いちご及びきくにおいて並～多の発生である。また、アブラナ科野菜やたまねぎ等で多発圃場が認められている。</p> <p>(4)フェロモントラップにおける誘殺数は、前年および平年に比べて並もしくはやや少ない傾向である(図5, 6)。</p> <p>(5)9月28日付福岡管区気象台発表の気象予報によると、九州北部の向こう1か月の気温は高い見込みであり本虫の発生に好適である。</p>

情報の種類	発表月日	対象作物	対象病害虫	情報内容
-------	------	------	-------	------

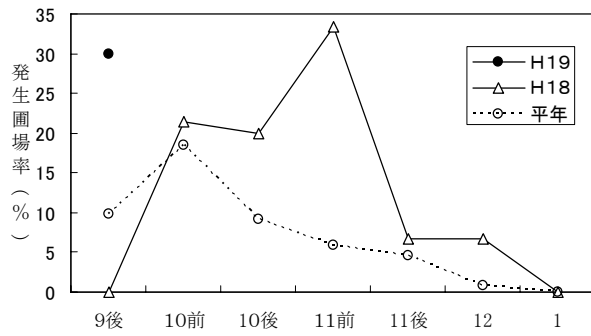


図1 レタス ハスモンヨトウ発生圃場率の推移(巡回調査)

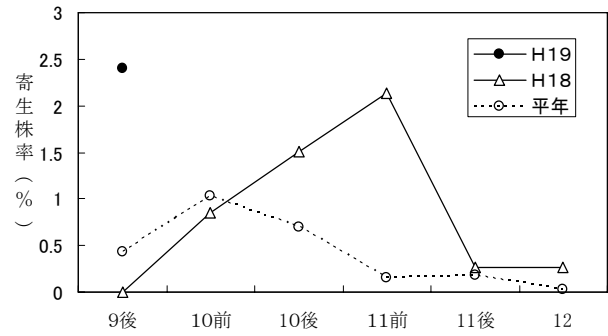


図2 レタス ハスモンヨトウ寄生株率の推移(巡回調査)

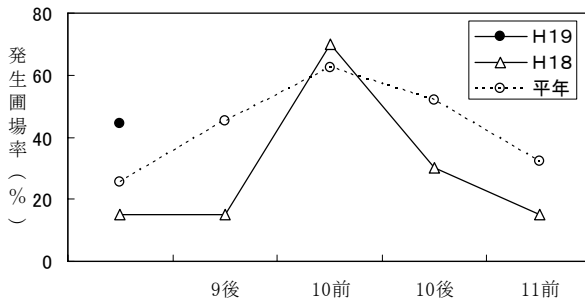


図3 ばれいしょヨトウムシ類発生圃場率の推移(巡回調査)

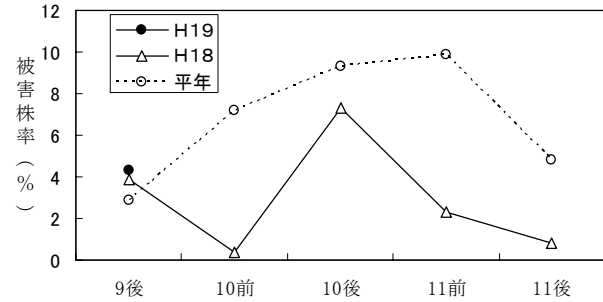


図4 ばれいしょヨトウムシ類被害株率の推移(巡回調査)

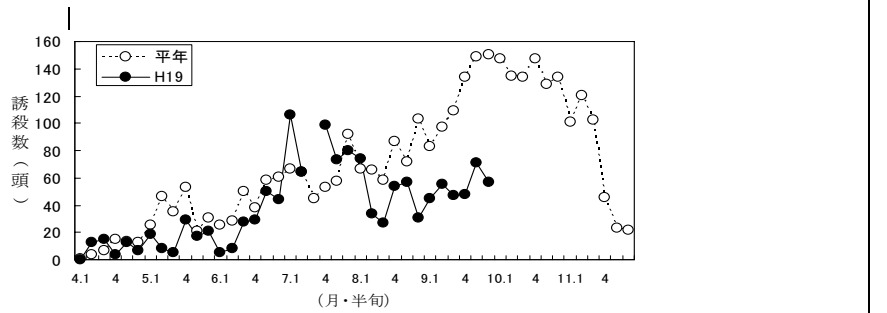


図5 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市)  
平年:H9~H18の平均値(最大・小値除く)

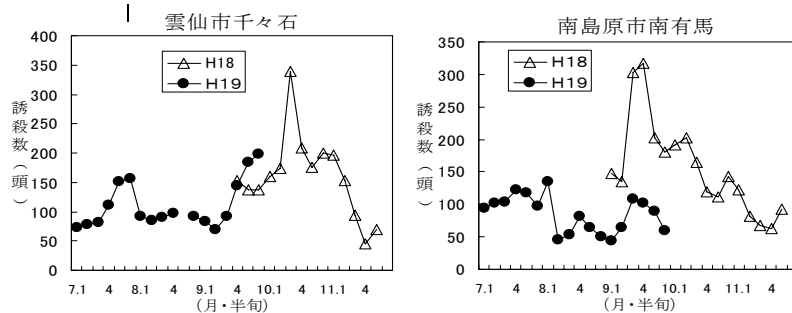


図6 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況

注1) 原則7日ごとの調査結果を、1日当たり誘殺数に換算後、半旬ごとに合計。  
注2) 雲仙市千々石、南島原市南有馬とも、平成18年9月から調査を開始した。

## 2. 防除対策

- (1) 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、圃場をよく観察して早期発見、早期防除に努める(薬剤は県防除基準を参照)。
- (2) 薬剤は、散布ムラの無いよう丁寧に散布する。

情報の種類	発表月日	対象作物	対象病害虫	情報内容
防除情報 第13号	平成19年 11月16日	施設野菜	タバココナジラミ	<p>きゅうり、トマトなどの施設野菜(果菜類)において、タバココナジラミ類の発生が多くなっています。下記の点に留意して防除指導をお願いします。</p> <p>1. 発生状況</p> <p>(1) 11月上旬の巡回調査におけるコナジラミ類の調査では、きゅうりでの寄生株率は17.6%(平成1.9%)、発生圃場率は100%(平成39.6%)、トマトでの寄生株率は5.4%(平成1.0%)、発生圃場率は75%(平成20.9%)と多い発生であった(図)。</p>

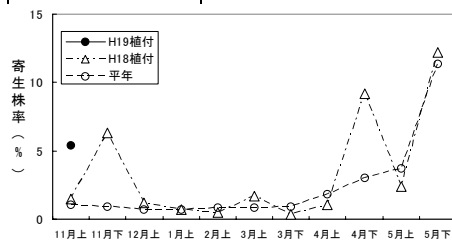


図 トマトコナジラミ類寄生株率の推移

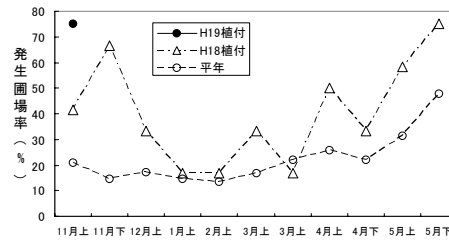


図 トマトコナジラミ類発生圃場率の推移

(2) 11月上旬の調査では、メロン、ナスにおいて本虫の多発圃場が認められた。

## 2. 防除対策

- (1) 本虫は強い薬剤抵抗性を持ち薬剤防除の効果が上がりにくいので、薬剤防除にあたっては表1を参考に選定する。また、昆虫病原性糸状菌製剤や気門封鎖剤(注1)の使用も検討する。
- (2) 作物の生育が進み茎葉が繁茂すると薬剤防除がさらに困難になるので、生育初期に防除を徹底する。
- (3) 本虫はTYLCVを媒介するので、トマトおよびミニトマトでは黄色粘着板等で発生状況を把握し、防除に努める。
- (4) 本虫はウリ類黄化症の発生への関与が疑われているので、きゅうりおよびメロンでは特に注意する。
- (5) 薬剤抵抗性対策のため、同一系統の薬剤は連用しない。
- (6) マルハナバチを使用するハウスでは、影響の少ない薬剤を使用する。

注1) 昆虫病原性糸状菌製剤にはマイコタールやブリファード水和剤などが、気門封鎖剤にはオレート液剤や粘着くん液剤などがあるが、それぞれ登録内容や使用上の注意事項が異なるので、確認の上使用する。

表1 室内での薬剤感受性検定で効果がある薬剤の「平成19年度病害虫防除基準」への記載状況

薬剤名	薬剤の効果		きゅうり	トマト	ミニトマト	メロン	ナス
	幼虫	成虫					
ベストガード水溶剤	○	○	◎	◎	◎	◎	◎
スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	○	○	◎	◎	◎	●	◎
バリアード顆粒水和剤	○	○	●	◎	●	◎	□
サンマイルフロアブル	○	○	◎	◎	□	◎	□
ダニロンフロアブル	○	×	●	×	×	●	●
アフファーム乳剤	○	○	●	●	●	●	●
ハチハチ乳剤	○	×	◎	◎	◎	×	◎
コロマイル乳剤	○	×	●	◎	◎	□	●
アブロードエースフロアブル	○	×	◎	◎	×	×	◎
モレスタン水和剤	○	×	●	●	×	●	●

情報の種類	発表月日	対象作物	対象病害虫	情報内容
				<p>前ページ凡例</p> <p>◎:記載あり(対象害虫:タバコナジラミ類)</p> <p>●:記載あり(対象害虫:他の病害虫)</p> <p>□:記載なし、H19年11月16日現在、コナジラミ類又は他の害虫に登録あり</p> <p>×:H19年11月16日現在、作物登録なし</p>
防除情報 第14号	平成19年 11月16日	トマト ミニトマト	黄化葉巻病	<p>促成栽培トマトおよびミニトマトで黄化葉巻病の発生が多くなっています。下記の点に留意して防除指導をお願いします。</p> <p>1. 発生状況</p> <p>(1)11月上旬の巡回調査(12筆)では、トマトでの発病株率は0.1%、発生圃場率は8.3%(前年 発生を認めない)でやや多い発生であった。</p> <p>(2)9月下旬のミニトマトにおける調査では、発病株率は3.3%であった。</p> <p>(3)TYLCVを媒介するタバコナジラミについて、11月上旬の巡回調査ではトマトでの寄生株率は5.4%(平年1.0%)、発生圃場率は75.0%(平年20.9%)と多い発生であった。</p> <p>(4)病害虫防除員の報告および関係機関からの聞き取りでは、11月中旬現在、促成栽培トマトにおける発生が前年、前々年より多い。</p> <p>2. 防除対策</p> <p>(1)外気温の低下とともに、タバコナジラミの飛来侵入による一次感染は少なくなる。今後はハウス内での二次感染防止対策を徹底し、まん延を防止する。</p> <p>(2)発病株の早期発見に努め、見つけ次第抜き取って適正に処分する。</p> <p>(3)ハウス内の雑草は病原ウイルスおよび媒介虫の発生源になるので除去する。</p> <p>(4)発病株の抜き取りと並行して、タバコナジラミの密度を低下させることが重要である。本虫の防除対策については、平成19年11月16日付病害虫発生予察防除情報第13号を参照のこと。</p>
防除情報 第15号	平成20年 2月15日	きゅうり	褐斑病	<p>キュウリ褐斑病の発生が多くなっています。今後の発生の増加が心配されますので、下記の点に留意して防除指導をお願いします。</p> <p>1. 発生状況</p> <p>2月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は7.6%(平年1.5%)、発生圃場率50.0%(平年22.9%)と多い発生であった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>図1 きゅうり 褐斑病発生圃場率の推移</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>図2 きゅうり 褐斑病発病葉率の推移</p> </div> </div> <p>2. 防除対策</p> <p>(1)病勢が進行すると薬剤による防除は困難であるため、早期発見・早期防除に努める。</p> <p>(2)病斑は伝染源となるため、発病部や下位の老化葉は取り除きハウス外に持ち出して処分する。</p> <p>(3)多湿条件では発生を助長するので、換気に注意し、できるだけ室温を30℃以下に下げる。</p> <p>(4)窒素過多は発生を助長するので、適正な肥培管理に努める。</p>

情報の種類	発表月日	対象作物	対象病害虫	情報内容
防除情報 第16号	平成20年 2月15日	いちご	ハダニ類	<p>いちごのハダニ類は近年多発傾向が続いています。今作における発生もやや多く推移しており、今後ハダニ類の増加が予想されます。下記の点に留意して防除指導をお願いします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1. 発生状況</p> <p>巡回調査において、ハダニ類の12月下旬以降の発生圃場率は平年に比べ高く推移している(図1)。また、2月上旬(27筆)の寄生株率は4.1%(平年5.1%)と平年並であったが、1月下旬の寄生株率2.2%に比べ増加した(図2)。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>図1 いちごハダニ類 発生圃場率の推移</p> <p>平年:H9～H18の平均値(最大・小値除く)</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>図2 いちごハダニ類 寄生株率の推移</p> <p>平年:H9～H18の平均値(最大・小値除く)</p> </div> </div> <p>2. 防除対策</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 発生の増加に注意し、発生初期の防除を徹底する。</li> <li>(2) 葉裏に多く寄生するので、薬剤散布は下葉かき等古葉の整理を行った後、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。</li> <li>(3) 薬剤感受性が低下しやすいので、同一薬剤は連用しない。</li> <li>(4) バロックフロアブルは、いちごのナミハダニに対して感受性低下の事例が認められるので注意する。</li> <li>(5) 天敵(チリカブリダニ等)を使用している圃場は、発生状況に応じて天敵に影響のない殺ダニ剤を活用する。天敵の詳しい利用方法については県病害虫防除基準等の使用マニュアルを参考にする。</li> </ol>
技術情報 第1号	平成19年 8月16日	果樹	カメムシ類	<p>果樹カメムシ類(チャハネアオカメシ、ツヤアオカメシ)当年世代成虫の羽化量及び果樹園への飛来時期の予測について</p> <p>本年は果樹カメムシ類の発生が少ない状況が続いてきましたが、8月後半以降は越冬世代成虫から当年世代成虫に入れ替わる時期となります。今後の発生について、下記のとおり予測されますので、防除指導の参考にしてください。</p> <p>1 当年世代成虫の羽化量について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 7月下旬に実施したヒノキきゅう果着生状況調査の結果、県内14地域の平均着生程度は1.6で平年の3.3と比較すると少ない～やや少なく、果樹カメムシの羽化量も平年より少ない～やや少ないと予測される。 注 発生程度の基準 地域でのヒノキの着生が、多:5、やや多:4、中:3、やや少:2、少:1</li> <li>(2) 7月下旬に実施したヒノキきゅう果ビーティング調査の結果、1枝当たりの寄生虫数は0.3頭(平年1.1頭)と少ない。</li> </ol> <p>2 果樹園への飛来時期について</p> <p>7月27～31日に実施したヒノキきゅう果の口針鞘数調査の結果、県内14地域の予測飛来日は9月4～23日(表)である。ただし、口針鞘数が著しく少ないため、果樹園への飛来がない可能性もある。</p>

情報の種類	発表月日	対象作物	対象病害虫	情報内容
-------	------	------	-------	------

表 各地域の果樹園への予測飛来日

地域名	口針鞘数	予測飛来日	地域名	口針鞘数	予測飛来日
長与町岡	0.7	9月17日	東彼杵町赤木	0.2	9月19日
時津町子々川	3.0	9月 7日	佐世保市針尾	0.4	9月18日
西彼町小迎	0.6	9月17日	佐世保市宮	4.0	9月 4日
西海町木場	0.2	9月18日	瑞穂町伊福	0.2	9月22日
多良見町東園	0.4	9月17日	国見町百花台	0.0	9月23日
諫早市長田	0.3	9月18日	有家町新切	0.0	9月23日
大村市今村	1.0	9月16日	北有馬町田平	0.2	9月22日

注1 7月27～31日に各地域5カ所(1カ所20果)を調査した。  
 注2 1果当たりの口針鞘数が25を超えるとカメムシはヒノキきゅう果から離脱する。  
 注3 予測は福岡県農業総合試験場が作成した予測式を利用した。  
 3 防除上注意すべき事項  
 (1) 上記の飛来予測日を参考に、園の見回りや防除の計画を立てる。  
 (2) 本年はヒノキきゅう果量が少なく、多くの園場では薬剤の散布は不要と思われるが、発生が多い園では、飛来初期に防除薬剤を散布する。  
 (3) 飛来量や飛来時期は同一地域内でも園によって異なる場合があるので注意する。  
 (4) 近年、ミナミトゲヘリカメムシの発生が問題となることがあるが、それはチャバネアオカメムシやツヤアオカメムシと異なる発生様相を示すので注意する。  
 (5) 今後の発生状況は予察情報や病害虫防除所ホームページに掲載する予定であるので防除の参考にする。

技術情報 第2号	平成19年 9月3日	茶	クワシロカイガラムシ	<p>茶のクワシロカイガラムシの防除対策について          第3世代の防除時期が近づいています。下記の点を参考にして防除指導をお願いします。</p> <p>防除対策</p> <p>1 本虫は年3回発生するが、それぞれの世代のふ化盛期が防除適期である。          2 1回脱皮してロウ質のカイガラを作りはじめると薬剤の効果が低下するので、下表の第3世代予測ふ化盛期当日～5日後に散布する。          なお、独自にピーク日を現地調査し防除適期を判断している地域ではその判断を優先する。          3 株内の枝や株元に薬液がかかるように十分量散布する。          4 発生を認めていない園でも新たな発生に注意する。          5 薬剤散布に当たっては、使用基準を遵守する。</p>
-------------	---------------	---	------------	---

表 クワシロカイガラムシ第3世代のふ化盛期予測日

地区名	東彼杵 赤木	東彼杵 太の原	世知原 板山	世知原 木浦原	五島 大津
平成19年	9/15	9/19	9/24	9/13	9/4

注1: ふ化盛期予測日は「有効積算温度則による防除適期予測法(東彼杵茶業支場)」により算出した。  
 注2: 使用する気温データには、ながさき農林業情報システム 500m メッシュ気象データを利用した。  
 注3: 平成19年9月3日現在で予測し(1月1日～9月2日まで実測値)、9月3日以降のデータは過去10年間の平均値を利用した。  
 注4: 第3世代の予測値は、現地調査による第2世代のふ化最盛期日以降の有効積算温度による(世知原 板山のみ第1世代のふ化最盛期日以降の有効積算温度による)。

情報の種類	発表月日	対象作物	対象病害虫	情報内容
技術情報 第3号	平成20年 3月3日	果樹	カメムシ類	<p>果樹カメムシ類の越冬量調査結果について 1月中旬～2月中旬に行った果樹カメムシの越冬量調査の結果等は下記のとおりでした。今後の果樹カメムシ防除の参考にしてください。</p> <p>1. 越冬量調査結果 平成20年1月中旬～2月中旬に常緑広葉樹林の落葉中におけるチャバネアオカメムシ成虫の越冬量を県内18地点で調査した結果、0.04頭/㎡で、平年値0.4頭/㎡に比べ少なかった(表、図)。</p> <p>2. 今後の発生について 越冬量と4月から8月上旬までの予察灯誘殺量は相関が高く(図)、今後、4月から8月上旬頃までは果樹園へのカメムシの飛来は平年より少ないと予想される。 発生状況の推移等については、今後の予察情報や病害虫防除所ホームページに掲載する。</p>

表 チャバネアオカメムシの越冬量調査結果

調査日:平成20年1月17,18日,2月18日

No	調査地点	調査面積 (㎡)	採取虫数 (頭)	開方位	標高(m)	果樹園からの距離(m)	樹林地を形成する 主要な樹種
1	多良見町東園	3	0	南	100	50(ミカン)	シイ、カン
2	多良見町佐瀬	3	0	南東	50	隣接(ミカン)	クリ
3	長与町岡	3	0	南西	80	隣接(ミカン)	シイ、カン
4	時津町西時津	3	0	東南	40	隣接(ミカン)	シイ、カン
5	琴海形上町大子	3	0	南	80	隣接(ミカン)	カン
6	西彼町小迎	3	1	南西	50	隣接(ミカン)	シイ、カン
7	西海町丹納	3	0	南西	80	隣接(ミカン)	カン
8	諫早市長田	3	0	南西	180	隣接(ミカン)	シイ、カン
9	高来町小峰	3	0	南西	90	1,000(ミカン)	シイ、カン
10	大村市今村	3	0	南西	50	隣接(ミカン)	シイ、カン
11	大村市鬼橋	3	0	南東	50	200(ミカン)	シイ、クリ
12	東彼杵町赤木	3	0	南西	50	隣接(ミカン)	シイ、カン
13	瑞穂町伊福	3	0	南東	100	隣接(ミカン)	シイ、カン
14	国見町百花台	3	1	南東	170	100(ミカン)	シイ、カン、クスギ*
15	北有馬町沢野	3	0	南東	150	1,500(ミカン)	シイ、カン
16	有家町新切	3	0	南西	200	隣接(ミカン)	シイ、カン
17	佐世保市宮	3	0	南西	300	1,000(ミカン)	シイ、カン
18	佐世保市針尾	3	0	南西	70	隣接(ミカン)	シイ、カン
	合計	54	2				
	1㎡当たり虫数(頭)		0.04				

